



園芸課
佐藤 久富

来年に向け、 畑の輪作を考えてみましょう

近年の気象変動によって、様々な作物の生育に変化が起きています。物価の高騰も相まって家庭菜園を始める方も増えていますが、そこで問題となるのが作物の連作障害です。
今回は、輪作と連作障害の考え方、作物の分類などのポイントを紹介しましょう。

【連作障害とは？】

畑で毎年同じ作物を栽培すると、病気になっていないにも関わらず、徐々に作物の生育や収穫量が減ってくる場合があります。これが連作障害の初期症状です。

症状が軽い内は堆肥の施用を増やしたり、接ぎ木の苗を使用したりすることでカバーすることが出来ますが、障害が目に見えてきた際には、作付場所の変更が必須となります。その状態になる前にできる対策が輪作という手法です。

【作物の主な分類】

ここでは主に春に植える野菜を4つの作物グループに分類（A～D）します。

○ナス科（A）…ナス・トマト・ピーマン・パプリカ・トウガラシ・じやがいも

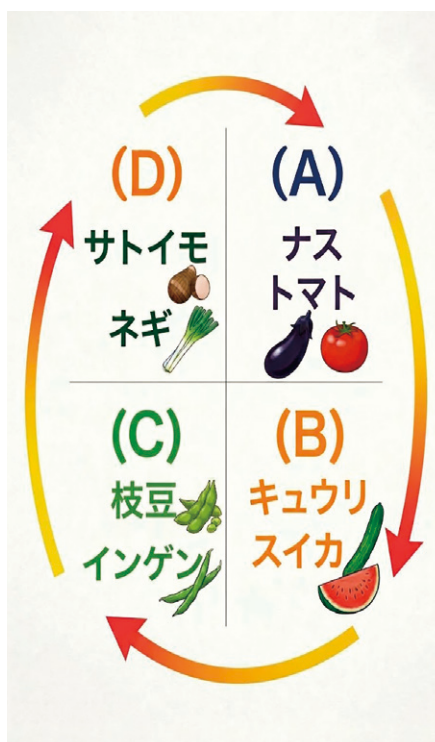
○ウリ科（B）…きゅうり・かぼちゃ・ズッキーニ、スイカ、メロン・ゴーヤ

○マメ科（C）…えだまめ・そらまめ・インゲン・エンドウ・ラッカセイ

○その他（D）…サトイモ（サトイモ科）・オクラ（アオイ科）・ねぎ（ヒガンバナ科）

【連作障害を避ける輪作体系】

同じ畑で作物を変えてローテーション作付することを輪作と言います。主な分類を参考に、畑や畝を4区画に分けて、作物を年ごとにA～Dの順番で入れ替えて植えると、連作障害を回避できます。この他に連作障害を起こしにくい、トウモロコシ（イネ科）・サツマイモ（ヒルガオ科）などを組み込むと良いでしょう。



最後に、今回は春植えの野菜に限定して紹介しましたが、野菜の品目によって、2～5年の作付休止期間を設ける場合もあり、連作障害を回避する方法は一概ではありません。また、一年のなかでも春と秋で違う品目を植える組み合わせも多くあります。今回の例を参考に、来年以降の作付計画を立てる参考としてください。

◇お問い合わせ◇

営農経済部 園芸課 0182-2316578